

米国の対外政策

2006年1月の一般教書演説:

- ・ 長期的目標は「**圧政の終焉**」
- ・ **自由・民主主義の拡大、テロとの闘いの継続、イラク復興の重要性**
- ・ 経済面で中国、インドといった新しい**競争相手の台頭**を認識。
中東からの**石油輸入の75%以上代替**を目標。

アジア情勢:

- ・ **北朝鮮**:核問題の平和的解決。不法活動の取締強化。拉致問題の我が国の立場を支持。
- ・ **中国**:中国が国際秩序の支柱となる責任を果たすよう(「responsible stakeholder」)働きかけ、中台関係については現状の一方的変更の試みにも反対。
- ・ **インド**:戦略的なパートナーと認識。民生用原子力協力に関する合意等を通じ関係強化。

●中東情勢:

- ・ **イラク**:今後の米軍派遣のあり方については、現地情勢にかんがみ判断。
- ・ **イラン**:イランの核問題に厳しく対応。
- ・ **中東和平**:ハマスに対し、暴力の放棄、イスラエルの生存権の承認、ロードマップを含む過去の諸合意の受容を要求。

日米関係（今後の対応を中心に）

日米関係のマネジメントの重要性

【二国間関係】

- 日米安保：
米軍再編問題
- 日米経済：
BSE問題
(米にしっかりとした対応を要求)
次官級経済対話
(知財権の保護、エネルギー等)
自動車
(今後対日批判が高まる可能性あり)

【日米間のチャンネルの強化】

- 【背景】米側での知日派の退任(グリーンNSC上級部長等)
- 【短中期的対応】 東京：シーファー大使(政権への影響力)
ワシントン：大統領府、国務省等
議員交流の活性化
シンクタンクとの連携強化、人脈拡大
- 【長期的対応】 民主党を含めた幅広い人脈構築
「次世代」の開拓・育成

【国際社会の諸課題への対応(「世界の中の日米同盟」)】

- 東アジア(中長期的な課題として)：東アジアの将来は中国の台頭と切り離して論じられず、中国が国際秩序を責任をもって支える建設的な役割を果たすよう日米で協力。
- 国連・安保理改革：安保理改革に向けた日米協力。
- イラク：イラク復興に向けた日米の連携強化。
- アフガニスタン：1月末のロンドン会合で4.5億ドルの支援をプレッジ。
アフガニスタンの安定と自立化に向けた地域協力につき日米で協力。
テロとの闘いのための協力も極めて重要。
- イラン：核問題についてイランに強い圧力をかけ、問題を外交的に解決するために協力。
- 北朝鮮：六者会合の早期再開、具体的進展に向けた日米協力。拉致、人権、ミサイル、不法活動対策等でも連携。
インド：印との戦略的関係強化の重要性を共有。米が進める民生用原子力協力については、我が国は注意深く検討。